

慶應義塾維持会

Newsletter



2021年9月
No.14

奨学生から、感謝を込めて。

contents

維持会奨学生からの
感謝のメッセージ

維持会員からの
メッセージ

奨学生採用実績

2020年度 慶應義塾維持会 収支決算

2021年度の維持会事業についてのお知らせ

奨学生から、感謝を込めて。

慶應義塾維持会をご支援いただきまして、心より感謝申し上げます。

2020年度は、コロナ禍により経済的に困っている塾生に対して迅速に、かつ、十分な支援を行うという目標のため、奨学支援事業として「新型コロナウイルス感染症拡大にともなう緊急奨学生支援」をおこないました。皆様のあたたかなご支援により、150,214,751円を「慶應義塾大学修学支援奨学金」として、塾生に給付することができました。誠にありがとうございました。

2021年度も新型コロナウイルス感染症は依然として猛威をふるっており、例年7月頃に開催しております「慶應義塾維持会懇話会」は、昨年度に引き続き、残念ながら中止となりました。一刻も早い事態の収束を祈っております。

2021年度も本会報誌を通じまして、維持会奨学生からの感謝の気持ちをお届けいたします。

維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2021年度

将来は塾員として奨学金を受けた恩を返し、塾生の学びに貢献したい

このたびは、奨学生として選出していただき、ありがとうございます。必ずや社会で活躍する人間となって皆様から受けた恩に報いるべく、よく学びたいと思います。

私は大学院への進学を志しております。学部生の現在は、文学部とメディアコミュニケーション研究所で2つのゼミに所属しており、前者では、文化人類学、特に日本の墓と葬送について研究をしております。後者では、日本近代史とメディアについて大学街に焦点を当て、修了論文を執筆しているところです。卒業研究を進めるうちに、学部の4年は、自らの問いと向き合うにはあまりに短すぎると感じ、大学院への進学を志すようになりました。大学院では文化人類学の分野に進み、日本の墓や葬送をめぐる人々の意識の変化について研究を続けたいと考えています。

また、塾によるコロナワクチンの職域接種実施により、諦めていた交換留学にこの9月から行ける事になりました。オランダのアムステルダム大学で、メディアについて学ぶ予定です。帰国後は、オランダでの学びを自らの卒業研究に還元し、大学院進学へ向けて自らの問いと一層深く向き合ってまいります。

今回維持会奨学金に応募させていただくにあたり、改めて慶應義塾の恵まれた環境で学べる事のありがたさを痛感しました。他の大学と比べても圧倒的に奨学金制度が発達しており、学ぶ意欲を持つ人に等しく支援の手を差し伸べ、その機会を与えて下さっています。塾のシンボル・ペンマークに象徴される「ペンは剣よりも強し」という精神が息づいていることを強く感じるとともに、そのような塾で学べる事を改めて誇りに思いました。

私も、将来は塾員として奨学金を受けた恩を返し、塾生の学びに貢献してまいります。

兵庫県出身 文学部4年



維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2021年度

高齢者を取り巻く法律関係について扱う弁護士になりたい

この度は昨年引き続き慶應義塾維持会奨学金に採用いただき誠にありがとうございます。

私はこの大学生活で1年次には海外留学、2年次には海外ボランティアの活動を行い、また所属しているフラダンスサークルでは三田祭・オリジナル公演で発表を行うなど様々な経験をさせていただきました。また3年次からはコロナウイルスの影響で対外的な活動はあまり行えませんでした。その分勉強に力を入れることができ、法律について深く学ぶことができました。基礎的な法律的素養を身に付けるため日々の大学の講義を大切にするとともに、ゼミにおいてはソクラテスマソッド式の授業で法的思考力を高めることができたと考えています。大学生活における学び・経験は自身を人間的に成長させてくれ、また将来の糧となりました。このような多くの経験と学びの時間を確保できたのも奨学金の支援があったからです。本当に感謝申し上げます。

私は将来高齢者を取り巻く法律関係について扱う弁護士になりたいと考えています。現代社会においては高齢者の自律した生活を送る権利を保護すべく介護保険法をはじめとする法律や後見制度など様々な制度が施行されています。そして流動する社会の中で今後ますますそのようなサービス・制度づくりが進められ、法律の在り方も変化していくと思います。私は高齢者の方々が個々のニーズに合った法・制度の選択・利用ができるように適切な法的解決策を示すなど、そのような方々の抱える不安や悩みを解消できるような弁護士になりたいです。このような夢をかなえるため、慶應義塾での学びを大切に日々過ごしていきます。

静岡県出身 法学部4年

夢に挑戦する勇気を与えられるような仕事をする事で社会に貢献していきたい

この度は慶應義塾維持会奨学金に採用いただき、誠にありがとうございます。ご支援いただけますことに家族一同大変感謝しております。

慶應義塾大学での大学生活は、残り二年間となり、今まで以上に文武両道で頑張っていきたいと思っております。学業におきましては、研究会での活動に力を入れています。経営戦略のゼミに所属し、経営戦略の理論や、統計での分析手法について学び、基礎的な知識を身に付け、自分自身で企業を分析できるようになることを目標にしています。部活動におきましては、「チームに勝利をもたらす選手になる」ことを目標に練習に励んでいます。大学での部活動の中で、挫折を経験し、逃げてしまいたくなくなったこともありましたが、現在は、取り組み方や考え方を変えたことで、前向きに努力を続けることができるようになりました。自分に足りないことを常に考え、一つ一つの課題を解決するために努力を続けています。バドミントンの集大成である大学生活の中で、目標を達成できるよう精進して参ります。また、大学卒業後の将来について考えを深めています。私は、応援し、支えてくれる人がいたことで、夢に挑戦し、叶え、可能性を広げることができた経験があります。多くの方が自分の可能性を信じ、夢に挑戦することが社会・経済の発展に必要な不可欠であると考え、人々に夢に挑戦する勇気を与えられるような仕事をする事で社会に貢献していきたいです。

今回、慶應義塾維持会奨学金をいただき、さらに目標に向かって努力することができる環境を整えていただきました。感謝の気持ちを忘れず、慶應義塾、さらには社会の発展に貢献できる人材となるため、日々精進して参ります。

熊本県出身 商学部3年



維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2021年度

世界の子供たちの笑顔を支えることのできる医師になりたい

この度は、慶應義塾維持会奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。ご支援をいただきました維持会の会員の皆様に深く感謝申し上げます。

私は、人の笑顔が好きです。そして、将来、世界の子供たちの笑顔を支えることのできる医師になりたいと思っています。具体的には、WHOなどの国際機関で医師として働き、アフリカなどの発展途上国への医療支援を含めた国際保健、国際医療の分野で世界に貢献する活動をしたいと考えています。私が医師を志す理由は、社会的要因で辛い状況に置かれた子供達を1人でも多く救いたいからです。私自身、人生の中で家庭環境によって辛く、悲しい思いをした時期がありました。だからこそ、嬉しい、楽しいといった感情が私の心により鮮明に映りました。私は、社会的環境によって辛い思いをしている子供は世界中に多くいるのだと思います。そして、無力な子供たちはその環境に抗う術を持っていません。だからこそ、私は、辛く悲しい思いを持つ子どもを救える人間になりたいと思っています。高校生の時、南アフリカ共和国で貧困層のスラムでの子供たちと実際に触れ合い現地の状況を見に行きました。この経験を通じて、子供たちの命が医療の不足や社会的要因で失われることがないよう、私は、彼らの一番大切な命に直結する医療行為のできる医師になろうと決意しました。子供達を救うこと、辛い気持ちを感じる子供が少しでもいなくなるように努力し続けることが、自分が常に考えて実践してきたことであり、これからも生涯変わらない自分の信念です。

私は、慶應義塾大学で、AIを使った治療や発展途上国の保健衛生の研究を行いたいと思っています。そして、先進国の医学を学び医師を志す者の1人として、コロナ禍においてより一層重要視される国際医療において世界に大きなムーブメントを起こしていく人間になりたいと思っています。

茨城県出身 医学部1年

ニーズを的確に捉え情報技術で自分達の生活を豊かにしたい

この度は、慶應義塾維持会奨学金に採用頂き、心から感謝申し上げます。

奨学生として採用頂いたことについて、両親に報告した際、父からは慶應義塾大学に感謝する気持ちを持つことは当然ながら、採用頂いた理由は、私の今後を期待してくれてのことだと言われました。また、その期待に対しては、今以上に勉学に励み、何れ社会に出てからは慶應義塾大学の卒業生として社会に大きく貢献、活躍することが、一番の恩返しに繋がると言われ、大変身の引き締まる思いを致しました。

現在、電気情報工学科では、身近な日常生活に欠かすことが出来ないエレクトロニクス分野の理論と開発を習得しています。例として、高齢者による自動車事故が問題となっています。そこで、AI時代におけるシンボリック存在として国内外で多くの人工知能の技術を活用した自動運転車が開発されています。自動運転システムは、ライダーやカメラなどのセンサーが取得したデータをもとに、車両の周囲や進行方向に道路状況や障害物などを認識するパーセプション、GPSなどGNSS（衛星測位システム）や車両の角速度・加速度を検出するIMU（慣性計測装置）などによって自動車位置を推定するローカライゼーション技術を核に、自動車をどのようにコントロールすべきか判断する過程において、エレクトロニクス分野の論理と開発技術が欠かせないと考えています。

併せて、情報技術を中心に経済学等についても貪欲に学び、サークル活動において有効な人脈作りにも注力し、ニーズを的確に捉え情報技術で自分達の生活を豊かにすることを目標に掲げて尽力する所存です。

岡山県出身 理工学部2年

奨学生からの感謝のメッセージは、基金室 Web サイトにも掲載しています。



オンラインだからこそできることに挑戦し、残りの大学生活も有意義に過ごせるよう努めたい

この度は慶應義塾維持会奨学金の奨学生として採用していただきありがとうございます。一昨年から引き続き今年も採用されたことは非常に幸運だと実感しています。

これまでの学生生活を振り返ってみても、慶應義塾維持会奨学金にはとても感謝しています。コロナの前は学業・サークル・学生団体の活動など、実際に様々な場所へ行き、多くのことに挑戦することができました。コロナで移動が制限されてからも、学費の心配をすることなく学業と課外活動に励むことができました。

昨年はコロナの影響で、外出自粛や、オンラインでの授業に加え、一人暮らしの中で中々帰省もできず、アルバイトの収入が減るなど大変な面もありましたが、オンラインだからこそできることにいくつか挑戦しました。

一年のときから所属している学生団体では、現在代表を努めているのですが、オンラインが当たり前になったからこそできるリモートミーティングで活動するようになりました。今までのメインとしてきた対面での活動ができなくなった代わりに、関東に進学した大学生だけではなく、関東以外に進学した学生もメンバーに加え、帰省のとき以外にも積極的に活動し、今までは手薄だった定期的な情報発信ができるようになりました。

また、学業においては全てオンラインでリアルタイムの授業で、人とのつながり・出会いが少なくなり苦労することもありましたが、学期を重ねることにより自分の興味分野に近い授業を取ることができてとても充実しています。

大学生活残り1年半を切ったところですが、慶應義塾維持会奨学金のおかげでこれまでの2年半はとても充実した学生生活を送ることができ、残りの大学生活も有意義に過ごせるよう努めたいと思います。

沖縄県出身 総合政策学部3年

幅広い年齢層に対する教育に携わりたい

この度は、慶應義塾維持会奨学金の奨学生として採用して頂き、本当に有り難うございます。ご支援頂いた維持会の皆様に深く感謝いたします。

現在、私は様々な学問を履修して、二次以降に所属する研究会を模索している最中です。周囲の学生は皆、好奇心に溢れ能動的に物事に取り組む人ばかりです。しかし2021年は入学早々オンライン授業に移行し、不慣れな日々を送っていましたが、同年6月末から活動制限レベルが引き下げられた事で再びキャンパスに戻れると知り、嬉しいです。このような人達と切磋琢磨できる場を提供して下さる慶應義塾には感謝の念しかありません。

義塾では、プログラミングを始めとしたIT関連の学問に加え、認知科学とデザインを学びたいと考えています。英語はビジネス英語を学習するなど更に実用的なスキルを磨き、運用能力を日本語と同じ水準まで引き上げます。

学外では、既にプログラミングに力を入れて勉強しています。大学生になり日々の時間的余裕も増えたので、消耗する遊び等で時間を浪費することなく、学外での勉強と活動に積極的に参加して、周囲に良い影響を与えたいです。

将来の目標は幅広い年齢層に対する教育に携わることです。SFCを卒業して社会に出た後は、社会に自分がどのように貢献できるかをしっかりと研究します。そして自分で事業を立ち上げ、自分の創意工夫と努力で多くの人に影響を与えられるようになりたいです。この目標は高校の頃から変わっていません。また、卒業後は少額でも自分に出来る分から維持会に寄付などの方法で、貢献していくつもりです。

鹿児島県出身 環境情報学部1年

■ 維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2021年度

看護の面から恩返しをし、慶應義塾の更なる絆の深まりと発展に貢献したい

この度は慶應義塾維持会奨学金に採用して頂き、心より深く感謝申し上げます。

学業に関しましては、これまで、本学での充実した学習環境に加え、尊敬する先生や先輩・同期・後輩に囲まれて、様々な刺激を受けながら幅広い視点で物事を考えて学びを深めることが出来ました。今は4年生であり、学んだことの集大成として、興味がある終末期分野での研究に励んでいます。状態が悪くなるにつれて活動が制限され、他人の支援を多く必要とする終末期の患者さんにとっては、看護師の関わり方によって生活の質が大きく左右されると考えます。そのため、患者さんの主観的な生活の質をどのようにアセスメントし、ケアに繋げて、評価すればよいかについて研究を通して考えを深め、患者さんの望みを最大限に叶えて、患者さんが最善の最期を迎えられる支援が出来るように励みたいです。

最後になりますが、重ねて慶應義塾維持会の皆様には御後援頂きますこと、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。私は、慶應義塾目つ奨学生の一員として恥じぬよう、心が折れそうになる時でも皆様への感謝を胸に、耐えて目標に向けて励んでいきます。そして、将来看護の面から恩返しをし、慶應義塾の更なる絆の深まりと発展に貢献したいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

佐賀県出身 看護医療学部4年

研究したことが少しでも未来の医療に繋がることを目標に、根気強く向き合いたい

この度は慶應義塾維持会奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は今、実際の医療現場で実務実習を行っています。薬剤師としての専門性を生かす瞬間や、患者さんとの関わり方など、学校では身につけられない部分を学ぶことができています。この貴重な経験ができる今の学生生活で、自分が社会人になったときに繋がる第一歩として、たくさんのごことを吸収していきたいと思います。学生としてはありますが、実際に患者さんと関わり、接していくのは、責任感の必要なことだと考えています。毎日気を引き締めて、これからも実習に励んでいきたいです。実務実習が終わると本格的に卒業研究が始まります。1年間、研究室に行って研究をし続けるということも、将来研究職に就かない限り、経験できないことです。この貴重な環境に感謝し、やるからには精一杯、研究に励んでいきたいと思います。私は膀胱がん、多発性骨髄腫の新たな角度での治療について研究し、二重特異性抗体というものの作成を目指しています。私が研究したことが少しでも未来の医療に繋がることを目標に、失敗も諦めず、根気強く向き合いたいと考えています。実習、研究に加えて、薬剤師国家試験に合格するため、日々勉強にも励みます。

これからの学生生活で、学業に全力を注ぐことができるのは、慶應義塾維持会の皆様のご支援があってのものです。感謝の気持ちを決して忘れることなく、成長していきます。ご支援を無駄にせず、慶應義塾大学の模範学生であり続けられるよう、目標に向かって日々精進していきます。

青森県出身 薬学部5年

維持会員からのメッセージ

黒田 穂賀 さん 金融関連／法人営業



Q 維持会にご寄付をいただいたきっかけを教えてください。

A 社会人1年目の7月頃のことです。維持会から案内レターをいただき、寄付の使い道を具体的に知ってから、私も微力ながら寄付ができたと思います。私も地方出身なので、地方から出て一人暮らしをする不安に共感します。そのような塾生の不安を軽くすることができたらいいなと思い寄付をしました。

Q 社会人1年目で寄付をされるのは、ハードルが高かったでしょうか？

A 実は地方出身者のために何かできないかと大学時代から考えていたんです。私には慶應義塾大学を目指している妹がいます。大学進学を考えると、慶應義塾の情報が地方では圧倒的に少ないと感じていました。そこで、姉として妹のためにできることはないかと考えていた頃、維持会に寄付をすると、三田評論を毎月いただくことができるということを知りました。私が読み終わった後で三田評論を妹に送ってあげることができます。維持会に寄付のお手伝いができて、さらに妹にも慶應義塾の情報提供ができるのであれば、非常に価値のあるお金の使い方ではないかと考えたのです。社会人になったばかりで経済的な余裕はなかったのですが、「1万円が何倍の価値にもなる」と思い、寄付というアクションに踏み切ることができました。

Q 塾員のみなさんへメッセージをお願いします。

A 私もそうですが、塾員のみなさんは日常で慶應義塾を意識する機会が多々あると思います。楽しかった塾生時代の思い出は今でも忘れられません。私だけでなく、みなさんの良い思い出として残っていると思うのです。

これまで支えてもらってきたことに対し、大人になった今だからこそ恩返しができるのではないのでしょうか。塵も積もれば山となる。金額は少なくともいいと思います。「みんなで義塾を支えていこう」というのが維持会の目的なので、寄付金額の多少にかかわらず胸を張っていいと思います。

私も頼れるところは人に頼って、自分ができることでは誰かの力になりたい。可能なところからアクションを起こすことが大切だと思います。維持会を通してみんなで義塾を支えていけたら、日本でも世界でも、もっと素晴らしい大学になるはず。みんなで義塾を支えていきましょう。



※掲載内容は2021年9月25日現在のものです。

奨学生採用実績

維持会奨学金

経済的理由により修学が困難な塾生を援助するため、2007年に創設しました。全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。毎年、厳正な審査の下、人物、学業・成績ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

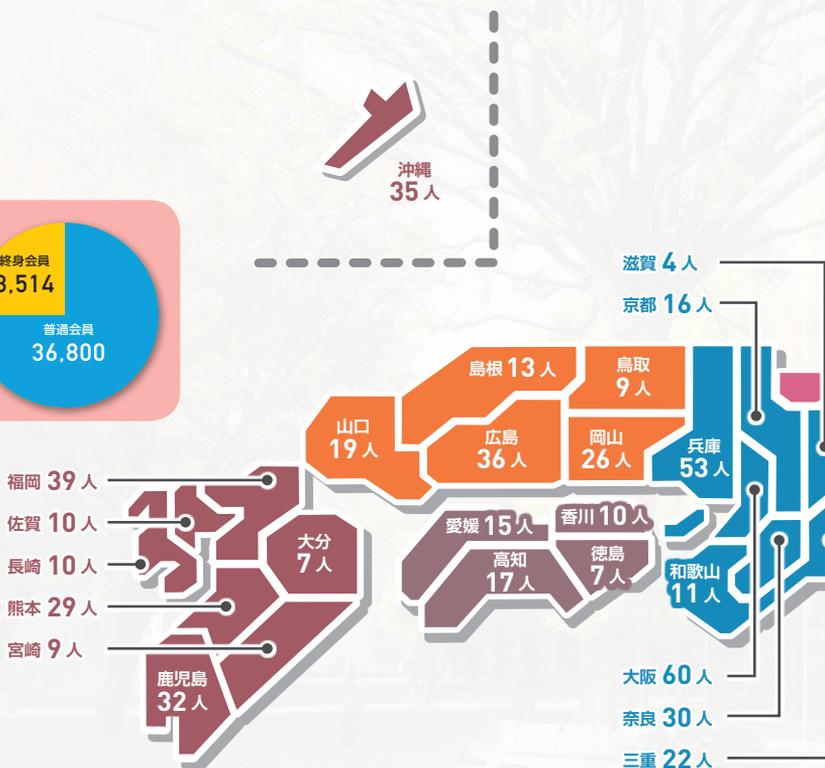
※「維持会奨学金」は給付型で返済の必要はありません。

2021年度

文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部 から	80名・各50万円
医・理工・看護医療・薬学部 から	55名・各80万円

維持会員の皆様が
奨学生を支えて
くださっています

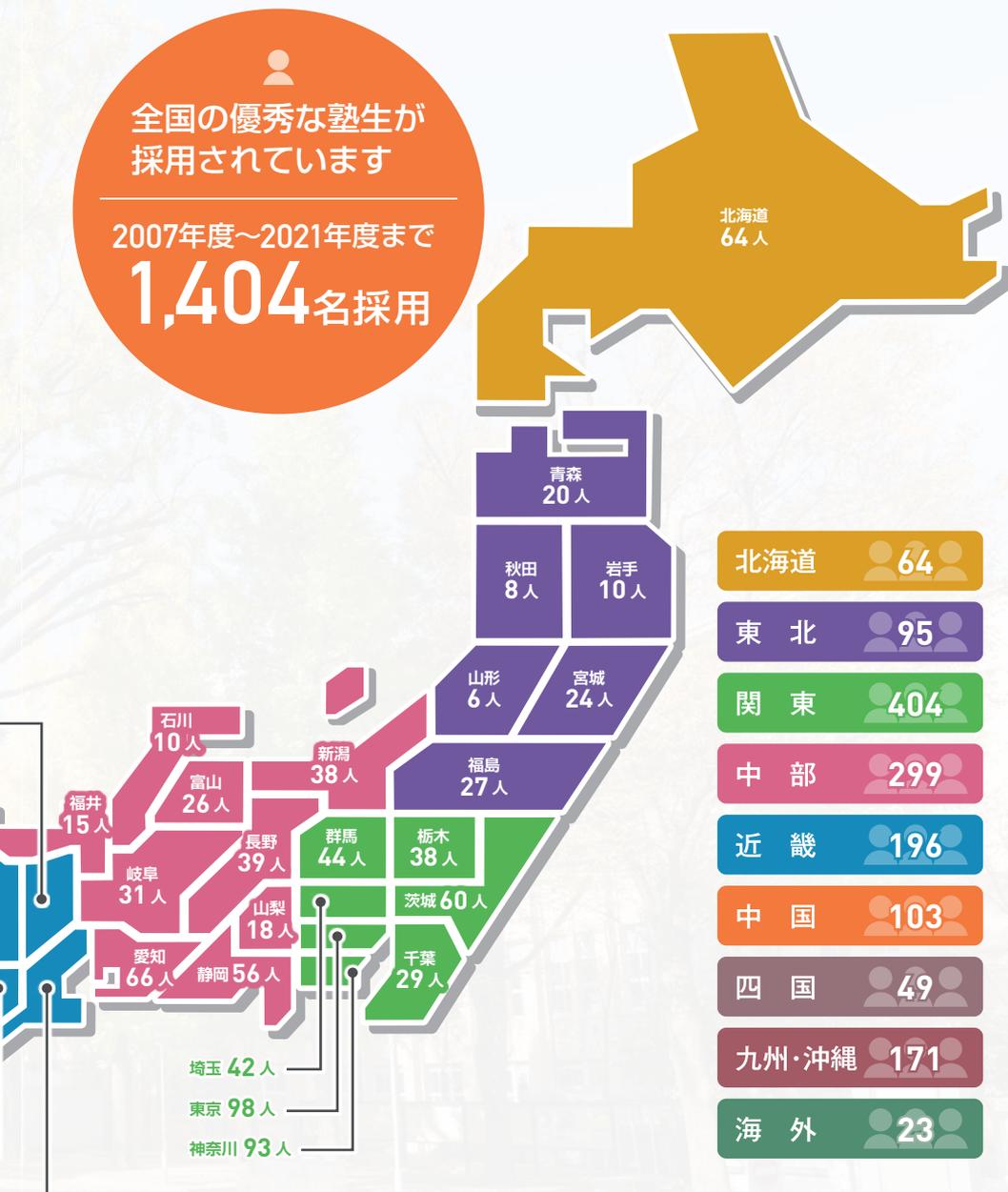
維持会員
45,314名
2021年7月31日現在



全国の優秀な塾生が
採用されています

2007年度～2021年度まで

1,404名採用



2020年度 慶應義塾維持会 収支決算

(単位：円)

収入の部	
寄付金	176,564,441
維持会基金運用収入	85,110,666
(1) 収入の部合計	261,675,107

支出の部		
維持会事業費	奨学支援事業	233,964,751
	その他の財政支援事業	1,110,666
管理経費	会員用三田評論諸経費	15,748,774
	事務経費	10,850,916
(2) 支出の部合計	261,675,107	

収支差額 (1) - (2)	0
(3) 年度末維持会基金残高	4,255,533,328

(2021.3.31 付)

(1) 収入の部

新規入会 331 件、継続 5,719 件、計 6,050 件の寄付金と維持会基金運用収入により 261,675,107 円となりました。

(2) 支出の部

奨学支援事業：「新型コロナウイルス感染症拡大にともなう緊急学生支援」に 150,214,751 円
「慶應義塾維持会奨学金」に 83,750,000 円を充当しました。

その他の財政支援事業：キャンパス施設整備資金として 1,110,666 円を助成しました。

管理経費：会員への『三田評論』発送郵便料等、維持会勧誘に伴う趣意書等作成費・DM 発送郵便料等 26,599,690 円を支出しました。

(3) 年度末維持会基金残高

収支差額は 0 円となり、2020 年度の年度末基金残高は、2019 年度の年度末基金残高と同額の 4,255,533,328 円となりました。昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財政基盤を強化します。

2021年度の維持会事業についてお知らせいたします。



■奨学支援事業「維持会奨学金」 84,000,000円

365名の応募があり、計135名の塾生に支給することが決定しました。

◀ 2020年度実績 ▶ 83,750,000円 238名の応募があり、計135名の塾生に支給しました。

■キャンパス施設整備資金 1,110,666円

塾生の教育・課外活動等における環境を一層充実させるための施設整備を計画しています。維持会からこの資金を助成します。

◀ 2020年度実績 ▶ 1,110,666円 大学キャンパス(三田)西校舎地下1階生協食堂什器購入費を助成しました。

■新型コロナウイルス感染症の影響による修学困難な学生への経済支援

新型コロナウイルス感染症の影響による家計急変、あるいはアルバイト収入の減少などによって経済状況が悪化し、修学が困難になった塾生に対する経済支援をおこないます。

皆様より賜りますご寄付の一部を、慶應義塾大学修学支援奨学金に充当させていただくことで、本事業をおこないます。

基金室 Web サイトにも奨学生からの感謝のメッセージを多数掲載しています。ぜひご覧ください。

慶應義塾維持会とは

1901（明治34）年2月3日、福澤諭吉の逝去に伴い、義塾社中の人々は義塾の運営に資するための方策を真剣に討議しました。その結果生まれたのが「慶應義塾維持会」です。慶應義塾は「義塾（パブリック・スクール）」の名が示すとおり、社中の協力と共同責任において維持・運営されるものであり、維持会の組織化はそうした義塾の理念を具体化したものといえます。現在、維持会員数は約45,000名を超え、会員の皆様からのご厚志による維持会基金は、2017年度末には約40億円を超えております。2007年度にはこの基金の運用益を充てることで「慶應義塾維持会奨学金」を創設、愛読心に富んだ優秀な塾生の経済的負担を軽減し充実した学生生活を送れるよう支援しています。また、義塾の教育・研究の振興、施設の拡充などに幅広く寄与しています。



維持会の状況



加入特典

『三田評論』の贈呈

義塾の機関誌『三田評論』を芳名掲載号(ご入金から約2~3ヵ月後)からご加入期間、贈呈します。

(参考：通常年間定期購読料 4,700円)

【三田評論】

慶應義塾の機関誌。明治31(1898)年創刊。講壇の話題をわかりやすく解説した特集、講演録、随想、活躍中の塾員紹介、義塾の近況等が満載されています。



記念品の贈呈

以下に該当される方に、維持会オリジナル記念品を贈呈します。

- ・新規で終身会員にお申し込みいただいた方
- ・既に普通会員の方で終身会員にお申し込みいただいた方

クリスタル時計（日本製・ベンマーク入り）



慶應義塾維持会

Newsletter No.14

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

TEL.03-5427-1545(平日9:00~17:00) FAX.03-5427-1546

E-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp <https://kikin.keio.ac.jp/ijikai/>



慶應義塾維持会 Newsletter は、基金室 Web サイトでバックナンバーも含めてご覧いただけます。

発行日 2021年10月5日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当